

平成26年度 第3回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成27年2月17日(火) 午後2時00分～午後3時55分

◇ 会 場 久喜総合文化会館 視聴覚ライブラリー室

◇ 出席者 (1) 出席委員  
金子貞雄委員 青木淳子委員 小笠原清春委員  
関口聡美委員 渡部貞一委員 若松昭子委員  
柴原早苗委員 高橋 博委員

(2) 教育局職員  
【教育局市町村支援部】  
横松副参事

(3) 図書館職員  
【県立浦和図書館】  
岡館長 陣内副館長 民本副館長  
荻原主席司書主幹 高橋司書主幹  
【県立熊谷図書館】  
乙骨館長 榎本副館長 伊藤教育主幹  
【県立久喜図書館】  
渡邊館長 根岸副館長 銭場教育主幹 吉山担当課長

◇ 会議次第

1 開 会 [久喜図書館 銭場教育主幹]

2 あいさつ 久喜図書館 渡邊館長

3 会議の公開について議決

傍聴希望者が2名いることを報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。

4 平成26年度第2回会議録報告

5 会議録署名委員の指名

会長が、青木委員と関口委員を指名し、了承された。

6 議 事

(1) 図書館サービス評価指標について

[浦和図書館 高橋司書主幹]

資料1に基づき、平成27年度、平成28年度の図書館サービス評価指標及び主な都県立図書館のサービス評価指標等について説明

【質疑】

会 長／確認をさせていただきたい。これから平成26年度が終了したところで、図書館協議会の委員の中から何人か出ていただいて図書館協議会サービス評価小委員会を作ることになると思う。その小委員会でのいろいろな議論とこの協議会委員

の皆様から出していただく意見との違い、役割分担を説明してほしい。その方が意見を出しやすいと思う。

ここで出していただいた意見がサービス評価小委員会の足かせになると困ると思う。これから新しい評価指標に向けての意見を出していただく、その辺にしばってよいか。

事務局／今日、この場では新しい評価指標に向けての御意見をいただければありがたい。

平成27年度、平成28年度のサービス評価小委員会では、その年々の目標値の設定や前年度の評価についての御意見を併せていただくことになると思う。

会長／新しい評価指標に向けて他の都県立図書館の資料を見ていただき、前回の協議会でもいろいろ御意見をいただいた。それらを踏まえ、参考とするために、自由に御意見をいただきたい。

私から、質問だが主な都県立3館を選定した理由はあるか。

事務局／近県の状況をいろいろ調べてみたが、似たようなところが多いというのが実情であった。ただ東京都、神奈川県については今申し上げた特色ある部分があったので提示させていただくこととした。すべての県立図書館の状況を確認したわけではないが、主だったところの図書館の状況を確認していたら岡山県立図書館が中期的な目標を掲げ運営しているということが分かり、東京都・神奈川県とも違う形だったので、この3館を例示させていただいた。

会長／一番最初に指標を提示したのは、神奈川県だったか。

事務局／神奈川県はかなり早い段階だったと思う。

委員／目標ということ考えたときに、工夫してできるものであることからすると予算、設備等制限があるものは対象外になると思う。県立図書館でないとできないものと他の市町村立図書館でできることもまた違うかなという印象がある。

埼玉県立図書館で特徴ある内容としては、「ビジネス支援」「レファレンス事例」などに力を入れていると伺っている。

また、東京都立図書館の指標に「学校教育活動の支援」とある。埼玉県では行っていない指標という点で気になった。

委員／神奈川県立図書館の「メディア掲載件数」、岡山県立図書館の広報件数（教育記者クラブへのお知らせ件数）がある。メディアへの働きかけが大切だと思う。図書館でこういうことを行っているということを知らせることが必要だと思った。

副会長／図書館として評価したいと思うのは、統計的な数値になってくると思う。予算がらみや来館者数、アクセス件数など図書館としては、行った結果という形ではあるが、努力すれば数値があがるとか直接的にすぐ結果に結び付くわけではないので基本的な数値は、あくまで参考的な数値になるという気がする。

もう一つは、図書館側から利用者に対し情報発信するものについても目標、達成度があると思う。そして、利用者側がそれに対して受け取った反応・評価・実際の満足度・役立ち度等を整理して評価するというのはどうか。県立図書館の今までの項目を見ているとそのあたりが見えてこない。図書館側が努力してできるものそれに対して利用者がどういう反応を示したか。それと毎年の変化をみるといような統計的な数値があってもよい気がする。

委員／東京都立図書館に数値目標設定がないというのは、斬新だと思った。ないからこそ自由な発想ができる。数値目標があると便利だが、数値目標を達成することが目標になり、無難に運営して今年度も数値を達成したということで年度を終え

てしまい利用者視点ではない気がする。利用者が使ってよかった、県立図書館が  
あってよかった、助かったというように結び付けてほしい。

また、メディア掲載についてだが、図書館関連の記事が先日、2件新聞に掲載  
されていた。「図書館と市民が共同で行った」広告だが「図書館の司書ではない方々  
が運営に携わり素晴らしい図書館を造ってきた」という記事があった。マスコミ  
に出ると地元の人々であれば誇りに思う。埼玉県も埼玉県ならではのできること  
をやっていただくと県民も意識が高くなり利用していくと思う。

会 長／数値目標についてだが、確かに例えば「レファレンス件数目標値19,500件」  
を達成したからそれが何なのかというのが一般の方々のとらえ方だと思う。

19,500件を達成するというのは、どんなふう利用者に役に立ったのか。  
前回の協議会だったか「役立ち度」という指標ができないかという話があった。  
数値以外で表すのは難しいと思うが、その点についても少し考えていただきたい。  
それがあればメディアへの発信、あるいは県民への発信が非常にしやすいと思う。

項目については、先程「学校教育活動への支援」「メディア関連」など現在、入  
っていない話もあったのでその点は、議論を深めていった方がよいと思う。

「ウェブサイトアクセス件数」は、電子図書館化の推進の項目でよいのか疑問  
としてないわけではない。ウェブサイトのアクセスというのはいろいろなコンテ  
ンツがある。新しく作られたコンテンツにどれだけ多くのアクセスがあり、どれ  
だけ効果があったか、分析になるかもしれないがサービス評価という運営の仕方  
に関わってくるかもしれない。

委 員／先程来から広報の話が出ているようなので、参考までにお聞きしたい。広報の  
予算は「図書館サービス運営費」の中に含まれているということでしょうか。広報  
というきちんとした予算枠があり額が決められているのかお伺いしたい。

事務局／広報という枠で予算はとっていない。イベントを実施する中で印刷媒体を作っ  
たりという予算はあるが、広報としての予算はこれだけというとらえ方はしてい  
ない。

委 員／予算や達成目標値等は2館体制で考えていくということでしょうか。現在は3館  
合わせた達成目標値になっているが、今後我々が考える数値は2館になった時の  
数値でしょうか。

事務局／数値目標については、2館体制を前提とさせていただき、それプラス数値目標  
については、2館とも改修工事等でしばらく休館する期間があるということも勘  
案して目標を設定させていただきたいと考えている。

委 員／平成27年度、28年度の目標は、物理的にできないものもあるが、基本的  
にはどんなことがあろうとサービスを低下しないようにすることが目標であり基本  
的なスタンスではないかと思う。目標・数値を考える中で、いろいろな事業で会  
社や県でも5カ年計画がある。5カ年のスパンで物事を考えていくことが必要で  
ある。この項目にしてもこれからの5カ年と6年先の5カ年は違う。重点項目と  
いうのは、5カ年くらいのスパンで決めていく必要がある。

また、評価は数値目標をあげないことのメリットもあるが、説明するのには数  
値がよくわかると思う。

県民の人たちが県立図書館に対して期待すること、役割は何なのかを探りなが  
ら、それらに対する県民の満足度と県立図書館の行いたいこと、県立図書館の施  
策と県民の欲していることとの両輪でいくような施策が必要だと思う。

会 長／評価、分析それらをどうつなげていくかが大事である。

委 員／現在の県立図書館が3館から2館になり、やがて1館の中央図書館に変わっていく変遷期にある。今、お話があったがサービスを低下させないことは不可能だと思う。例えば3館が1館になると地の利を失った方の利用は減り、全体の利用者が減ることは避けられない。ただ、3館が1館になるというのは単純にサービスが3分の1になるのではなく、提供するサービスの質が変わってくるのだと思う。人気のある図書を揃えるのが県立図書館の役割ではなく、私が個人的に県立図書館に求めるものは専門性・希少性かと思う。

例えば、「江戸時代のあの本を実物で見たい」ということに応えられるような図書館がこれからの図書館かと雑感だが感じている。

委 員／私は県立図書館、市立図書館、国会図書館に行く場合それぞれ期待するものが違うので分けて利用している。県立図書館が市町村立図書館・学校図書館と何が違うのか、何を求められているのかははっきり理解することにより指標、目標ができる。

委 員／先程、県民の期待という意見があったが、県立浦和図書館が閉館するということに対して、県民がそれは困るという意見をどれくらい寄せられたのか伺いたい。

事務局／日常、浦和図書館のカウンターにいる職員が窓口で伺っているのは、かなりたくさんの方から御意見をいただいている。浦和図書館閉館に対する利用者説明会を3回行ったが、それぞれ4、50名の方に御出席いただき浦和図書館がなくなるのは困るというお話をいただいた。

会 長／この後、議事（3）で県立図書館について議題が出ている。今後の予定等について話があると思うので、詳しくは後程そこで話を伺う。

会 長／県立図書館の評価指標、運営をどのように行うかについては今後の宿題になってくると思う。県立図書館の役割、県立図書館に期待するものについて話があったが、県立図書館として行ってもらわなければいけないのは、市町村立図書館が行うことをきちんと行えるよう必要な支援をすることも絡んでくる。県立図書館、市町村立図書館、学校図書館など埼玉県内全体の図書館力のアップを考えていけないか。それには、それぞれの立場でやるべき仕事をきちんと行うということの上で成り立つと思う。

委 員／私は、市立中学校の応援団的な役割で学校図書館への協力をしている。学校の図書館は非常に充実している。蔵書も多いが、利用されていない。埼玉県内それぞれ図書のためにお金を使っているが、利用率が低い。小中学校は、市の運営になるがあんなまでよいのか、市立図書館でも何とかしてもらいたい。

## （2）「図書館と県民のつどい埼玉2014」の結果について

〔浦和図書館 高橋司書主幹〕

「図書館と県民のつどい埼玉2014」の中で実施したビブリオバトルの映像を視聴後、資料2の実施結果報告に基づき説明

### 【質疑】

会 長／ビブリオバトルの映像を見たが、非常に上手で感心した。このビブリオバトルのDVDは今後何かに利用するのか。

事務局／広報用に利用したい。これからもビブリオバトルを続けていきたいと考えている。映像を見るとイメージがわかるので、宣伝用、PR用として活用する予定である。

会長／当日は、衆議院議員選挙日に当たっていたが、入場者数が増えている。

委員／アンケートのコメント欄を拝見したが「記念講演では、ずっと女性作家の方なので男性作家の方も招いてほしい」「開催を年末の忙しい時期ではない時に実施してほしい」などの御意見が多い。来年への課題かと思う。

副会長／午後から参加させていただいた。ビブリオバトルを観させていただいたが、素晴らしかったと思う。参加者も多く本当に素敵な会になった。

また、先程、学校図書館の利用が少ないとの御意見があったが、当日は学校図書館、公共図書館、大学図書館などの展示があった。学校図書館の展示も素晴らしく感激した。図書館というのはどちらかというと興味のある子と興味のない子がはっきりしている。真ん中あたりのグレーゾーンの子供たちの利用を広げられないか、そんなことを考えた。

時期についてだが、去年はもう少し早かったと思う。今年はこの時期に行うことになった理由は何かあるのか。

事務局／今年度の開催は、会場の都合で少し遅くなった。

副会長／もう少し早かった方がよかったと思う。10・11月は、同じような行事がいろいろあり、この時期だから参加できる方もいたと思うが、11月下旬から12月初旬だと他の行事と重ならなくてももう少しゆとりがあった。

委員／ビブリオバトルは、とてもおもしろい。「YouTube」にのせているのか。

事務局／これはのせられない。

委員／とてもよいものなので、テレビ埼玉と共催できないか。

会長／（マスコミ関係者の委員さんに）広報の専門的な立場で何か意見はあるか。

委員／限りある予算だと思うが、テレビ埼玉で協力できる場所はあると思うので、検討いただければと思う。

会長／これからつどいの記録集ができるが、記録集を宣伝材料に使用し広めてほしい。せっかく動画も撮っているので、来年度に向け検討してほしい。

(3) 県立図書館について [教育局市町村支援部 横松副参事]  
資料3に基づき県立浦和図書館閉館に伴う今後の体制等について説明

説明後、事務局から県立浦和図書館閉館に際し開催する企画展「浦和文化の風景—県立図書館と埼玉会館—」と「さようなら県立浦和図書館」について、チラシをもとに説明

会長／議事(4)の平成27年度当初予算案について説明をいただき、質疑を一緒に行った方が質問も出しやすいのでお願いしたい。

(4) 平成27年度当初予算案について [熊谷図書館 伊藤教育主幹]  
資料4に基づき、図書館管理運営関係予算、県立図書館関連事業予算の内容及び前年度比較について説明

【質疑】

- 会 長／議事（３）県立図書館について、（４）平成２７年度当初予算案について説明をいただいた。これからのことについての話となるので、質問・意見等は一括でどちらでもよいのでお願いしたい。
- 委 員／新県立図書館の予算計上をしていないということだが、県立浦和図書館が閉館し大きな県立の中央図書館ができるということではないのか。
- 副参事／平成１８年度の県立中央図書館構想以来、埼玉県教育委員会としては、１館に集約してワンストップで利便性を考慮したいと考えている。かなりの年月が経ち、諸般の事情により教育委員会の力だけでは難しく、今年度は予算の計上は見送られた。それ以上は何とも申し上げることができない。
- 委 員／関連した質問だが、一県民として県立浦和図書館がなくなるのだったら、いつどこに新県立図書館ができるのかが、一番みんなが関心のあるところだと思う。具体的な答えはないということか。
- 副参事／前回の協議会でも説明したが、熊谷に土地はある程度確保している。出来ればそこに建てたいという意向はある。知事も議会答弁等で熊谷に建てるのが一番よいのではないかと発言している。有識者会議も開催し提言をいただいているので、現在、基本構想を事務レベルで具体的に練っているところである。出来るだけ早い時期に中央図書館を建設していく方向にしたいと考えている。
- 委 員／現在、県立浦和図書館が建っているのは、県の土地か。
- 副参事／はい、そうである。
- 委 員／県立熊谷図書館は、駐車場が少し狭い。目の前にある駐車場だけなのか。
- 事務局／隣のハローワークと図書館の間に砂利敷きの駐車場がある。目の前にある駐車場のスペースより広い。しかし、今度そこにプレハブを建てて、県立浦和図書館の職員の方々を受け入れるような場所として使う予定もあるので、今よりは狭くなる。
- 委 員／駅から遠いので、どうなのかなと思う。駐車場がないので、バスを使うようだと足が遠くなるという気がする。どこかに借りる予定とかはないのか。
- 事務局／今のところは、まだ考えていない。駐車場がすべて使用できないわけではないので、台数としてはかなり止められる予定である。利用状況を見ながら今後、検討していきたい。
- 委 員／要覧を見ると県立浦和図書館の職員は４１名いるが、閉館になると浦和図書館の職員はどちらかに配置転換になるのか。
- 副参事／基本的に機能は、すべて熊谷図書館に移るので、職員は全員熊谷図書館に異動するということになるが、当然スケールメリットが働く。窓口が減ったり、管理部門が減ったりするので、その分の人数は減る。想定では１０名弱位減るのではないかと考えているがまだ、決定事項ではない。
- 委 員／旧玉川工業高校に資料を保管する倉庫を作るということだが、ただ保管だけなのか。資料として閲覧若しくは、予約・貸出ができるシステムになるのか。
- 副参事／今のところは、書庫としての利用のみを考えている。特に住民の方にサービスを行うことは現在考えていない。
- 委 員／そこにある資料は、ネットから予約して例えば文書館で受け取ることは可能か。
- 副参事／熊谷図書館から少し離れた場所に収蔵庫があるようなイメージを持っていただ

けるとありがたい。職員が旧玉川工業高校に行き、資料を取って来て文書館や市町村立図書館で貸し出すことはできる。現実的には、その場で出せないで1日又は2日位時間はかかると思う。

副会長／文書館内にサテライト機能を整備すると説明があった。浦和から県立図書館がなくなるわけで近郊の人々は、不便になると思う。サテライトはどの位の広さなのか。

もし、熊谷図書館の分室のような機能を持たせるのであれば、専門の方が常駐することも必要だと思う。そのあたりは、どのような体制になるのか。

副参事／まだ、運営については検討事項であるが司書を常時配置する予定である。その場ですべてできるというのは、難しいと思うが、受付や簡単な相談は受けられると思っている。現在のところでは、7m×10m程度の広さの予定である。

基本的に、そこに本を常時置く予定はない。貸出返却の窓口になると考えている。

さらに、禁帯出の閲覧は難しいところではあるが、出来るだけ貴重な本を浦和でも見せてほしいという御要望が強かったこともあり、なんとか禁帯出の本もサテライトの場所で閲覧できるようにしたいと考えている。

副会長／禁帯出資料というのは、貴重書という資料のことか。

副参事／貴重書というのは、表現が難しい。例えば、通常貸出はしないが図書館で御覧いただける資料をイメージしている。百科事典は難しいとは思いますが、例えば貴重な郷土資料を貸出しはできないが、研究のために御覧いただくというように若干、便宜を図っていきたいと考えている。

副会長／イメージしていたことと少し違う。参考図書室のようなそこに行けば調べものができる、そういう空間ができるかと期待したがそうではないようだ。熊谷まで行けない方たちに貸出できないものを見ていただく、また、本を取り寄せるそういうイメージですね。

会 長／県立図書館の一定の蔵書を市町村立図書館に預かってもらい、例えばさいたま市立、川越市立の図書館などで代わりに利用できるようにすることは可能か。

副参事／おっしゃるとおりそのようなこともできて、オーバーなことだが市町村立図書館がすべて県立図書館のサテライトになればよいが、対応の問題、人事、司書の問題がある。

また、資料は、同じものが何十冊もあるわけではない。1回どこかにいってしまうと次に回ってくるのは何日間かかるといような話もある。イメージとしては、県立図書館の資料をどこの市町村でも使えるようなイメージを今後、構築出来たらいいという考えは持っている。その考えについては、現在構想を練っているがその中でもできれば入れていきたいと考えている。

副会長／具体的なものが見えなくて、予算もよくわからない。このようにしてほしいという希望は私も含め皆さんもあると思う。浦和に県立図書館がなくなる。そしてその機能が2館に分散される。今、出来るだけ多く、サテライトの役割を持つような図書館が出来たら理想的だとおっしゃったが、利用者にとっては、なくなってしまう県立図書館の機能がどこにどんなふうになっていくか見えない。例えば何年か暫定的な期間の中で、県立図書館の利用の手引きや県立図書館がこのような形で動いているというパンフレットのような形のものを配布いただけるとありがたい。広報を見ている人や近くにお住まいの方は、浦和から県立図書館がなくなるというのはわかるが、気が付いたらなくなっていたという県民やさいたま市

民の方が多いのではないか。気が付くと図書館がなくなっていた、機能もなくなってしまうがどうしたらよいかわからない利用者が増えると思う。そういう時のために、埼玉県立図書館は、この様に御利用くださいという簡単なパンフレットのような形のものを市役所や市町村立図書館などで配布できるようにしていただきたい。

図書館はみんなの希望で成り立つものなので、みんなが期待をなくし希望を捨ててしまうと図書館はどんどんすたれてしまう。みんなの希望や要望を取り出すためにもそういうアピールも必要かと思う。ぜひよろしくお願ひしたい。

副参事／お話はよくわかった。市町村立図書館、県立図書館、国立国会図書館、あるいはビジネス支援については、ジェットビジネスライブラリーのような図書館などいろいろあるがそのようなところとの関連性や役割分担もしっかり考えながら県民サービスのために努力し、利便性が上がるように今後工夫していきたいと考えている。

会長／今までに出た意見のひとつに、県立図書館の今後について見えない中で縮小になり、サービスも縮小にならざるを得ないところもある。それに対し、御出席の委員の皆さんは非常に危機感をお持ちであるということでもまとめてよいか。

委員／私は、危機感を持っていない。時代の流れだと思っている。

会長／本日、欠席の方もいらっしゃるの、そういう意見を持っている委員が多いというのは、きちんと記録しておきたい。

これから2館体制になり地域的に熊谷と久喜になる。西部地区と南部地区の直接的なサービスは弱くなる。それを補って県民に役に立つ図書館にするということで、どんなアイデアを出せるかもう少し考えてもいいと思う。図書館の方々も当然考えていると思うが、浦和図書館がなくなりビジネス支援関連については、熊谷に行かなければならない。熊谷にある本を他の場所でどう利用できるか、そのあたりをいろいろと実情を見ながら議論をしていく必要がある。

委員／先程、市立図書館、県立図書館を使い分けしていると言ったが、県立図書館で非常に便利だと思うのは、県立図書館にはないが市町村立図書館にある蔵書を取り寄せてくれる。とても便利である。文書館をサテライト化するというのは、とても素晴らしい。こういうことであるならば、もう少し県立図書館と市町村立図書館が手を結んで文書館だけがサテライトではなく、市町村立図書館が県立図書館のサテライトになるようお互いにやりあえないか。常に近い場所にある県立でも市町村立でも図書館に行けば利用できる。ただ、取り寄せが難しい資料もあると思うが。県立図書館と市町村立図書館がもっと協力しあえるようなことができると思う。

会長／文書館内に整備するサテライトは4月1日から利用できるのか。

副参事／準備があるので4月当初からは難しい。できるだけ早く利用できるようにしたいが、何カ月かかかる。施設も整えなければいけないが、2、3カ月以内には利用できるような形にしたい。

委員／その時期は、ちょうど久喜図書館も休館している時だと思う。

副参事／久喜図書館は5月15日まで休館である。

委員／新年度が始まり1か月半くらいは、熊谷図書館1館体制で文書館内にサテライトもできていない状況になる。その時期は、学校の先生方も教材研究をしたい時期でもあると思う。全部その時期に重なってしまうというのが、もう少し何とか



ならなかったのか。県立の大きい図書館が1館できるという希望があるわけでもなく少し淋しい。今後、こうなるということを見せたい。4月になった時に浦和図書館はない、久喜図書館は休館している。淋しい状態の新年度になってしまうという気がする。

会 長／これからどういう図書館を予定しているのか、それがどういう機能を発揮して、その機能を発揮すると県民の生活にどのように貢献することができるか、ということを見せたい。早く知らせたいし、わかりたい。予算がつかない中で苦労されて構想などを作成されていると思うが、早く公表していただければと思う。強く要望したい。

予算についてであるが、資料費は努力し何とか確保していただいていると思うが昨年度と比較しマイナスとなっている。△1.9%を若干とみるのか、シーリングと考えてよいか。

事務局／マイナスシーリングがかかる中で、図書館サービス運営費の資料費を△1.9%に抑えられたと思う。しかし、マイナスではあるので、非常に残念な状況ではある。

会 長／個人的な要望になるが、今県立図書館でどういうことが行われているか県民に知らせよう努力してほしい。

委 員／浦和図書館がなくなり、将来もしかしたら熊谷に新しい県立図書館ができるかもしれないというあいまいな状況にある。例えば国際線の機能が羽田から成田に移ってしまったようなそんな気がする。

先程、御意見で図書館が閉館することに対し時代の流れではないかとの話があった。浦和図書館閉館に際し開催する企画展のチラシの写真からも感じ取れる。昭和30年、40年代の写真を見ると県立図書館は、人々に対し大変な役割を担っていたと思う。大行列をしている人々の写真もある。これだけインターネットが普及し世の中が変化している時代であり、今の現実を受け止め我々県民も考えなければいけないのかもしれない。

#### (5) その他

委 員／昨年度の協議会で電子図書館についての情報を提供したが、その後どうなっているか調べてみた。(株)紀伊國屋書店、(株)KADOKAWA、(株)講談社の3社が「日本電子図書館サービス」というものを2013年10月15日に設立している。稲城市立図書館、山中湖情報創造館が実証実験を開始したとあったが、その程度で実際進んでいないような印象であった。

もう一つは、大日本印刷(株)、日本ユニシス(株)、(株)図書館流通センター、丸善(株)の4社が2014年4月に新たな電子図書館サービスを開始するという事であり、その時の目標は、5年間で300図書館への導入を行いたいとの話であったが、その後情報が出ていないという状況である。

議事終了

(傍聴者退室)

7 閉会

[久喜図書館 銭場教育主幹]

閉会后、埼玉県立図書館協議会の今後の予定及び委員の委嘱等について事務局から連絡

会議録署名

会 長 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印

委 員 \_\_\_\_\_ 印